

アオサギ観察会

2008年6月20日

神話の中のアオサギ

アオサギは神話の中にしばしば登場します。中でも最も華々しい活躍を見せたのは古代エジプトにおいてでしょう。そこでは、アオサギは「ベヌウ」という名の聖鳥として現れます。この名前、上る、輝くなどを意味する単語に由来するそうです。それもそのはずで、ベヌウは太陽神ラーの魂として存在しているのです。一説では、ベヌウの卵から太陽が生まれたとさえ言われています。かくもアオサギと太陽との結びつきは深いものだったのです。



左の図は太陽の舟に乗るベヌウ。朝、東の地平線から頭に太陽を載せて出航し、晩に西の地平線に辿り着きます。そして、翌朝ふたたび東の空から同じ航海を始めるのです。毎日繰り返される生成と消滅の繰り返しパターン、これは古代エジプトの人々に輪廻転生を想起させるものだったようです。

こうしたことから、ベヌウは冥界の王であるオシリスの魂とも見なされていました。右の絵はオシリスの冠を戴いたベヌウです。ここでのベヌウは、死というよりは新たな生命、再生を象徴する存在だったとも言えるでしょう。

太陽、再生、あるいは不死、ベヌウのもつそういった重層的なイメージは、エジプトからやがてギリシャへと伝わっていきます。そして、ギリシャでは、フェニックスとして再び新しい命を吹き込まれることになったのです。

